

蜷川幸雄演出作品「ハムレット」からみる現代の若者像

1A131258-0

濱本壮大

概要

日本を代表する舞台演出家である蜷川幸雄は、若手俳優を抜擢するにあたり抜群の才能を持っていたと考えられる。演技派俳優として有名な藤原竜也は、若干14歳にして舞台「身毒丸」で蜷川幸雄に見い出された。また、蜷川は「ラスト・サムライ」に出演する15年も前の渡辺謙を起用し、渡辺はこの舞台を皮切りに大河ドラマの主演を務めるなど、その才能が開花した。才能の発掘にセンスを発揮する蜷川だが、彼の起用した名だたる俳優たちの中で、一際異才を放つ人物がいる。2015年版の「ハムレット」においてノルウェー王子フォーティンブラスを演じた無名俳優、内田健司である。フォーティンブラスは物語において、復讐を果たし、自身も息絶えるさなかのハムレットに、王座の後継者として指名される人物である。2015年版より以前の蜷川演出では、フォーティンブラスは暴力的で潑刺とした人物として描かれていた。しかし本演出版では青白く痩せ細った身体を持ち、およそ舞台発声方法としては、不釣り合いなボソボソ声で話す内省的な人物として次世代の王が描かれた。

この演出、および内田健司起用の理由は、現代を生きる内田のような内省的な若者たちと、蜷川幸雄自身が若かりし頃に抱えていた「生きづらい少年」の姿がリンクしたからであると考えられる。最初こそ、内田たちのように弱々しい若者たちを認めようとしなかった蜷川。しかし、彼らとの舞台製作を通して、世間との確執や集団からの疎外感に苦しんできた自分と同じように、表面化されない部分で、彼ら若者たちも深い葛藤を抱えていると悟った蜷川は内省的な若者たちのありのままの姿を肯定したと考えられる。2015年版「ハムレット」で描かれたフォーティンブラスの姿は、そんな内省的な若者こそが次世代を引っ張っていく存在であることを実感した蜷川が、次世代の王フォーティンブラスの姿を媒介し、内田たち若者に未来を託した何よりも証明であると言えるのではないか。